

第7回 境川かわまちづくり推進協議会議事要旨

- 1 開催日時 令和8年3月23日(月) 午前10時00分～午前11時30分
- 2 開催場所 浦安市役所4階 S2～4会議室
- 3 出席者
(委員)
陣内会長、鶴田副会長、浅川委員、後藤委員、清家委員、横山委員、森委員、高柳委員、石川委員(計9名)
(河川管理者)
千葉県 県土整備部 葛南土木事務所 調整課 小原副主査
(事務局)
都市整備部 小池次長
道路整備課 赤堀課長、小泉課長補佐、竹内係長、広瀬主任主事、宮崎主任主事、河合主事
(事務局補助)
公益財団法人リバーフロント研究所 土屋、阿部、仁田原、風間、利満、坂本
(傍聴) 1名
- 4 議 事
 - 1) 今年度の取組状況について
 - 2) 運営体制について
 - 3) 成果と評価について
 - 4) 今後の予定
- 5 会議経過
 - 1) 今年度の取組状況について
 - ・事務局より、令和7年度の境川かわまちづくりの取組状況について説明を行った後、各委員より以下の意見をいただいた。

(委員)

 - ・水質調査について、水門操作を活用した水の入替えの試行について報告があったが、水位が低下したタイミングで水門を開放し、境川の水を入れ替える実験を行ったところ、水質改善につながる可能性が感じられた。
 - ・水門開閉タイミングについては、最も水位が低い時だけでなく、その手前の段階でも操作を行うことで、より効果的な水質改善が期待できるのではないかと考えられる。今後は、適切な水門操作のタイミングについて検討を深める必要がある。

・水質だけでなく生き物調査の視点も取り入れるべきである。生物の存在を確認することで、「境川に生き物が住んでいる」という市民の実感にもつながると考えられる。特に、子どもたちが参加できる調査として展開することで、水質についても考えるきっかけとなり、参加者の増加にもつながることが期待される。

(委員)

・境川親水テラスにおいて生き物が生息しているとのことだが、その生息分布などは把握されているのか。

(委員)

・浦安市役所から下流については浦安水辺の会が、上流側については浦安市郷土博物館が生き物調査を行っている。これらの調査結果を踏まえながら検討していくことで、議論が深まると考えられる。

(委員)

・浦安水辺の会では、ハゼの調査は継続的に実施しており、そこから他の生き物の存在も確認されている。一方で、その結果について体系的に整理されたものはない。調査は実施されているものの、生き物観察会についてはまだ実施されていない。

(委員)

・今後、大いに可能性があると考えられる。親子で観察する機会等を創出することで、より盛り上がりにつながることを期待される。

(委員)

・昨日潮位が下がっていた際に、境川親水テラスから栈橋まで歩いたところ、牡蠣殻があったり、ヘドロが約 30cm 程度堆積している箇所が確認された。このことから、現状では親子連れによる観察会の実施は危険性があるのではないかとも思う。

(委員)

・ヘドロの除去等の浚渫について、計画に位置付けられているのか。

(事務局)

・水質改善のためにヘドロ除去等を行うべきとの意見は、市民からも挙がっている。こうした取組を実施するためには、河川管理者である千葉県との協議が必要となる。かわまちづくりはこれまでも千葉県と連携して進めてきているが、実施にあたっては、まちづくりの観点からの必要性を整理することが重要であり、その整理がなければ実現は難しいと考えられる。このため、引き続きヘドロの堆積状況等の現状把握を行う必要がある。その上で、今後の対応について千葉県と協議していく予定である。

(委員)

・過去の水質調査時に、浚渫を実施してほしいとの意見が挙がっていた。また、ポンプによる

吸い上げの方法も提案されたが、吸い上げた泥の処分方法については、今後専門家を含めて検討していければと思う。

(委員)

- ・東京都が外堀(飯田橋周辺)において浚渫を実施していた事例がある。持続的な対応としては難しい可能性があるが、一定程度の効果があったのではないかと思う。

(委員)

- ・浚渫については、水門内は県により実施されているが、水門外については実施されていない。そのため、先ほど言及のあった境川親水テラス付近は、最もヘドロが堆積している箇所である可能性がある。なお、下流の新町に在住しているが、牡蠣殻は見られるものの、水質については比較的透明度があり、きれいであると感じている。簡易的な水質調査の方法があれば、随時実施することも可能である。水質改善の主な対象は東西水門内と考えられるが、下流側の水質状況を把握することも必要であると考ええる。

- ・歴史ガイドツアーについては、事務局からの詳細な説明により、理解が深まった。重要なのはターゲット設定であり、若い世代を対象とする場合には、生活に関わる内容や飲食店の紹介を取り入れるとよい。また、船上からの景観については、新橋と西水門の間の川沿いに植栽があると、より良い景観になると考える。旧大塚家付近は両岸に緑があり、良い雰囲気形成されていた。年齢層等に応じてターゲットを分け、複数のプログラムを作成することが望ましい。

(委員)

- ・船上から自分の住んでいる町を見ることは重要であり、まちづくりに関わる個人としての経験や知識の習得にもつながる。また、生き物観察に船を活用するなど、複合的な取組として展開していけるとよい。

(委員)

- ・生き物の観察については、小規模でも実施可能であるため、そのような形で展開していくことが望ましい。過去に、若潮公園から子どもたちをプレジャーボートに乗せた経験があり、川から少し出るとすぐに海に出る構造となっているため、川の波と海の波の違いを体感することができた。
- ・もともと浦安の漁業者は川から海へ出て生業としていた歴史があり、そのような体験を子どもたちに提供することは大事だと思う。

(委員)

- ・1年間の振り返りについては、ほぼ毎月何らかのイベントが開催されており、活動が着実に広がっていると評価できる。また、水質調査についても成果が見られた年度であったと考えられる。実際に調査を実施した関係者の実感が共有されている点は重要であり、さらにその結果を次の取組に結び付ける計画が立案されている点も評価できる。一方で、境川親水テラスにおける水質調査については、現時点で十分に実施されていない印象があり、水門操

作後の影響も含め、今後テラスの整備があり利用が増加することを踏まえると、当該箇所における継続的な調査の実施が必要であると考えられる。

- ・歴史ツアーについては内容が非常に充実しており、関心を持つに値する取組である。境川親水テラスワークショップに参加した際も、市民から当該エリアの歴史について共有があり、興味深い内容であった。こうした歴史を学ぶことや、シビックプライドの醸成という観点からも、子どもたちの参加は重要である。学校教育と連携しプログラムを構築することで、地域理解を深める機会を創出することが望ましい。

(事務局)

- ・親水テラスの水質調査については、別紙「R7 年度境川水質調査結果」p.12 の水門操作時調査 B において示している。東・西水門の操作により水門間の境川の水が入れ替わることによる水質への効果について検証を行った。具体的には、東西水門の開閉操作の前後で水質を測定し、その変化を把握した。

(委員)

- ・子どもたちも調査等に参加することが望ましいとの意見があったが、歴史的・文化的景観を実際に歩いて感じることは重要である。学校の教育プログラムと連動させていくことが望ましい。

(委員)

- ・元町ではまちあるきが実施されており、景観まちづくりフォーラムにおいてまちあるきを実施した際、小学生の方がよく地域を理解している様子が見られた。新町においても、大人より子どもの方が地域についてよく知っている。

(委員)

- ・浦安市郷土博物館があることから、子どもたちの方が地域についてよく学んでいる可能性がある。富岡小学校では「境川について学ぼう」という授業が一度実施され、子どもたちの反応は良好であったが、現地に行く必要があり時間がタイトであることなどから、2 年目は実施されなかった。体験授業は時間との戦いとなり難しい面があるためイベント的に実施した方がよいかもかもしれない。

(委員)

- ・実際に昔の浦安を知っている地域住民から直接話を聞くことも有効ではないか。現地での案内においては、過去の体験や遊びについて直接語ってもらうことで、子どもたちの関心や理解が高まる。このような語り部的役割を担う人材の活用は有意義である。

(委員)

- ・ハード整備に関しては、生き物が生息しやすい環境づくりを意識する必要がある。例えば、カニやハゼが生息しやすい構造の水辺や、素材の工夫により牡蠣の付着を抑制するなど、技術的な対応が考えられる。
- ・また、安全に体験できる空間を確保する観点からも、専門家の意見を踏まえ、これらの要素

についてはハード整備の段階で十分に検討する必要がある。

2) 運営体制について

- ・事務局より、令和7年度の境川かわまちづくりの運営体制について説明を行った後、各委員より以下の意見をいただいた。

(委員)

- ・メンバーズの入会状況についてはいかがか。

(事務局)

- ・現時点では制度が立ち上がったばかりであり、入会フォームの運用等も整備途中であるため、旧進める会に参加していた者の中にも未加入者が一定数存在している状況である。一方で、これまで関わりのなかった団体や、市内にキャンパスを有する大学、過去にかわまちづくりに関わった団体等の新規参画も徐々に進んでいる。全体として関係者の広がりは見られるものの、現時点では具体的な数値としての整理には至っていない。

3) 成果と評価について

- 事務局より、令和7年度の境川かわまちづくりの成果と評価について説明を行った。

4) 今後の予定

- 事務局より、境川かわまちづくりの今後の予定について説明を行った後、各委員より以下の意見をいただいた。

(委員)

- ・前回協議会には参加できず、今回初めて参加した。様々なイベントが実施されており、認知度の向上など一定の成果が出てきていると感じた。このような取組は今後ますます重要になると考えられるため、引き続きイベント等を継続し、市民への周知を図っていくことが望ましい。

(委員)

- ・観光遊覧事業については、市民が中心となって進めていくことが望ましい。また、今後は宿泊税の導入も見込まれることから、その活用を視野に入れて検討することも有効ではないかと思う。

(委員)

- ・ソフト面では体制や組織が進化してきていることが分かる。今後のハード整備については、あまり一度に作り込むのではなく、ソフト施策と連動しながら段階的に進化させていけるとよい。

(委 員)

- ・現在、仕事では多自然川づくりを担当しているが、多自然川づくりには三つの柱(自然環境・歴史文化・水辺利用)の概念がすべて含まれている。境川ではそれらすべてに取り組んでおり、成果が出ていることは評価できる。また、それぞれの取組の相乗効果により、より良い成果が生まれることが期待される。今後は、分野横断的な連携の推進や、エリア全体での展開が期待される。
- ・また、元町から新町にかけて全体でかわまちづくりに取り組んでいることが明確になってきた。
- ・来年度も、境川親水テラスの整備検討を含め、引き続き連携しながら検討を進めていくことが望ましい。

(委 員)

- ・「かわまちづくり」支援制度の登録条件として、令和6年度から自然再生や子どもが安全に川と触れ合える環境づくりの項目が追加される中、境川は令和6年度に「かわまちづくり」支援制度に登録された。境川は浦安の背骨であり、川だけでなくまちづくりにつながる取組を共有していくことが重要である。拠点整備については、施設整備にとどまらず、周辺エリアとの回遊性や観光との連携を意識し丁寧に議論する必要がある。

(会 長)

- ・本日はこれで議事を終了する。

問い合わせ先 都市整備部 治水課 電話:047-712-6577